

中学校1学年総合的な学習の時間学習指導案（全体計画）

- 1 日 時
- 2 学 級 第1学年1組～6組
- 3 単元名 「地域で支え合う ― 災害時に支え合う地域をつくる」
- 4 単元の目標
 - (1) 防災学習を通して地域社会の役割や意義を理解する
 - (2) 災害時における「自助・共助・公助」の考え方を学ぶ
 - (3) 体験活動を通して、支え合うことの大切さを実感する
 - (4) グループ活動を通して他者の考えを知り、自分の考えを深める
- 5 指導計画（全10時間）

時間	学習活動	注意事項
1時間目 から 3時間目	「自助・共助・公助」について学ぶ 被災経験者の話や地域の取組を知る 災害時に起こる困りごとを考える	導入で防災の基本的な考え方を確認 ゲストなどは、社会福祉協議会に相談するとよい 地域で支える仕組みを具体的に知る
4時間目 から 8時間目	地域の関係機関と連携し、以下の体験活動を実施します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 避難所運営ゲーム（HUG）or 災害図上訓練（DIG） 正解を求めるのではなく、判断の難しさや多様な意見を大切にする。 ● クロスロードゲーム（防災意思決定ゲーム） 少数意見を尊重し、価値観の違いを認め合う。 ● 非常食調理体験（学年の代表者が体験・実食は全生徒） 避難所生活を送ることのイメージをしながら実践する。 ● 車椅子等（要配慮者）避難体験（福祉体験の授業と兼ねる） 体験後は必ず振り返りを行い、「自分にできる防災行動」へつなげる。 体験を通して、 <ul style="list-style-type: none"> ● 助け合いの大切さ ● 連携の難しさ ● 判断することの責任 を体感的に学びます。 	①安全管理 事前に目的を共有し、安全管理と役割分担を明確にする 社会福祉協議会等の関係機関と十分に打ち合わせを行う アレルギー・体調確認、緊急連絡体制を整備する 体験活動は、保護者や地域の方の協力を得ると良い、地域の方への協力の呼びかけは、社会福祉協議会に依頼する
9時間目 から 10時間目	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動の振り返り（google フォーム等を活用） ● グループで学びを整理 ● KJ法を活用したまとめ・発表 ● 「家庭や地域で自分にできること」の具体化 ▶ さらにできること <ul style="list-style-type: none"> ● 家族と避難ルートを確認する ● 地域防災訓練に参加する ● ボランティア活動に関わる 	振り返りは成果よりも「気づき」を大切にする。 意見を否定せず、多様な考えを尊重する。 家庭での取組は強制せず、各家庭の事情に配慮する。 地域活動への参加は任意とし、安全面を確認する。 防災行動を押し付けるのではなく、自発的な意識と行動につなげることを大切に する。

※本学習は、地域防災をテーマに学年全体で体験的な学びを実施したいという思いから、社会福祉協議会（ボランティアセンター）に相談し、連携・協働のもとで実現した実践事例である。

学校と社会福祉協議会が継続的に連携することで、専門的な知見や地域資源を活用した実践的な防災学習が可能となった。今後も地域とのつながりを大切にしながら、協働による学びを深めていくことが重要である。

【この授業のポイント】

1 地域連携を行う

学校内で外部連携を担う教員（授業の取りまとめ役）と、社会福祉協議会（ボランティアセンター）担当者が中心となり、半年以上前から対面およびメール等で打ち合わせを実施する。

本学習は、地域の関係機関と連携し、1学年全員が参加する体験型防災学習として実施する。

＜本授業の連携におけるタイムスケジュール＞

授業（全10時間）を実施するため、関係機関とは年度末から準備・調整を行う

3月下旬（年度末）	学校担当者と社会福祉協議会（ボランティアセンター）担当者が打ち合わせ （前年度の振り返り、次年度の実施方針・規模の確認）
4～5月	年間計画の共有、体験内容（HUG・DIG・クロスロード・非常食調理・車椅子等 （要配慮者）等）の方向性を協議
6～7月	実施内容・担当人数・必要物品・安全管理体制の確認・役割分担の整理
9月	事前学習の実施（自助・共助・公助の理解、防災の基礎学習） 関係機関との最終打ち合わせ
10～11月	体験型防災学習の実施（1学年一斉体験）
12月	活動の振り返り・まとめ（KJ法、発表等）
1月	「家庭や地域でできること」の具体化 地域防災訓練やボランティアへの接続の検討
2月	年間の学びの総括・関係機関との成果共有・次年度への改善点整理

2 実施にあたってのポイント

本学習は、地域の関係機関と連携して進める体験型の防災学習です。事前に十分な打ち合わせを行い、当日の役割分担や安全管理（緊急連絡体制、体調・アレルギー確認等）を明確にしたうえで実施します。体験活動は「体験すること」自体を目的とせず、活動前の目的共有と活動後の振り返りを通して、気づきを「自分にできる防災行動」につなげます。さらに、不安や恐怖を強調するのではなく、「地域で支え合う力」を育む視点を大切に、多様な意見を尊重しながら学びを家庭や地域へ広げていきます。